

平成 15 年 7 月 8 日

日本造血細胞移植学会
同種末梢血幹細胞ドナーフォローアップ事業
参加施設 各位

同種 PBSCT 小委員会

平素は大変お世話になっております。

さてこの度、末梢血幹細胞ドナー短期フォローアップ調査におきまして、下記の通り「クモ膜下出血」に関する報告を得ました。つきましては、参加施設の皆様に現時点での情報をお知らせいたします。尚、本件は未だ調査中の事例ですので、本文書等の取り扱いにつきましてはご注意くださいようお願いいたします。

記

【採取チームからの報告内容】

- 1)ドナー情報 : R-2330、 37 才、 女性
- 2)G-CSF 投与期間 : 2003/6/8 ~ 2003/6/12
- 3)報告受理日 : 2003/6/30
- 4)有害事象名 : クモ膜下出血
- 5)有害事象の内容 : PBSC 採取のため上記期間中 G-CSF 投与(6 月 12 日は朝のみ)し、6 月 14 日に特変なく退院。退院時血小板 6.1 万だが出血傾向なし。6 月 21 日の来院時には血小板 16.4 万。(21 日に軽度の頭痛があったが、他に症状なし。アセトアミノフェン処方)。6 月 28 日から頭痛が出現し、6 月 30 日受診す。マヒ、嘔気、項部強直などの所見なく、念のため CT をとったところ左 silvius 溝に限局性のクモ膜下出血を認め、至急脳外科へ紹介した。6 月 30 日の血小板は 24.2 万。詳しくは後日報告予定。
- 6)G-CSF との因果関係 : 関連なし
- 7)判断理由 : G-CSF と pheresis により血小板は 6 万まで低下したが、その後回復しており、G-CSF との直接的な因果関係はないものと考えます。

【採取チームからの続報】

その後の経過、判明した点につきご報告申し上げます。6月30日紹介先の病院(脳外科)で夕方から手術を受けました。脳底動脈に7mm大の動脈瘤があり、そこからの破裂、出血と考えられ、クリッピングの処置を受けました。他に2mm程度のものもあり未破裂でしたがそこも処置を受けました。重症度は脳外科での基準でいうグレード1とのことで比較的軽症とのこと。今のところ意識の低下した時期はなく麻痺も認められず、今後2~3週間のあいだ脳血管の反応性 spasm がなければ、後遺症も残らず順調にゆくのではないかとのことです。

以上